

魅力ある駅周辺整備を探る①

九州新幹線「筑後船小屋駅」と「新鳥栖駅」

「リニア中央新幹線」計画について、シリーズでお伝えしています。

昨年9月には、中央新幹線環境影響評価準備書が公表され、詳細ルート、駅及び車両基地の位置が明らかになるなど、いよいよリニア事業の全貌が明らかになってきました。

現在、市では、リニア駅周辺のまちづくりをどのように進めていくか検討をしています。

全国には、オリジナリティ豊かなコンセプトや特徴あるまちづくりを行っている新幹線駅があり、市民の皆さんにも駅や周辺整備についてイメージしていただくため、今後、このシリーズの中で紹介していきます。

今月は、平成23年3月に全線が開業した九州新幹線から筑後船小屋駅と新鳥栖駅をご紹介します。

問 リニア推進課(☎内線 323)

デザインコンセプト 筑後船小屋駅(福岡県筑後市)「公園の中の駅」

筑後船小屋駅は、福岡県南部の筑後市の南端に位置します。筑後船小屋駅に隣接して、広域的な都市公園である県営筑後広域公園(全体計画面積約200ヘクタール)の整備が進められており、「公園の中の駅」をコンセプトとする特徴的な駅です。

筑後市では、九州新幹線の整備にあたり、J R鹿児島本線の船小屋駅を筑後船小屋駅に隣接する位置に移設しました。在来線との乗り継ぎは地上部で行われますが、車道を横断することなく、駅前ロータリーに隣接する広場を通して安全に行き来することができます。

駅舎には、公園を見渡せる展望デッキや情報発信施設を設置、駅前広場にもモニュメントや滝などが配置され、「公園の中の駅」にふさわしい駅と駅前広場となっています。



県営筑後広域公園区域内に設置される珍しい駅



水と緑あふれる駅前広場



在来線駅とは地上通路で連絡

デザインコンセプト 新鳥栖駅(佐賀県鳥栖市)「はばたく～新しい時代、新しい交流ゲート～」

新鳥栖駅は、佐賀県鳥栖市の中央に位置し、九州新幹線の鹿児島ルートと長崎ルート(平成34年開業予定)の分岐点となっています。

新幹線駅の整備と併せて長崎本線の駅が設置され、在来線のすべての特急列車が停車する駅となりました。在来線との乗り換えは地上部で行われ、新幹線の高架下は駐車場として有効活用されています。

佐賀県では、産学官共同で国内4か所目、九州初の重粒子線がん治療施設「九州国際重粒子線がん治療センター」(サガハイマツト)を新鳥栖駅前に開設しました。優れた交通アクセスを活かし、九州はもちろん全国からの利用が期待されています。



「カチガラス」(佐賀県の県鳥)のはばたく翼をイメージ



九州国際重粒子線がん治療センター